

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 11 月 24 日 (2006.11.24)

【公表番号】特表 2006-504721 (P2006-504721A)

【公表日】平成 18 年 2 月 9 日 (2006.2.9)

【年通号数】公開・登録公報 2006-006

【出願番号】特願 2004-542491 (P2004-542491)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/506 (2006.01)

A 6 1 K 31/4745 (2006.01)

A 6 1 K 31/704 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 7 D 401/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/506

A 6 1 K 31/4745

A 6 1 K 31/704

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 43/00 1 2 1

C 0 7 D 401/04

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 10 月 4 日 (2006.10.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

本明細書で使用されている、“抗癌剤に耐性”なる用語は、癌状態の処置における抗癌剤の治療的効果の減少または消失と定義する。癌の抗癌剤に対する耐性は B C R P、例えば B C R P の発現または過剰発現によるものであり得る。B C R P の低発現でさえ、抗癌剤に対して耐性の癌の原因であり得る。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

一般に、B C R P - 介在耐性により影響を受ける抗癌剤は、アントラサイクリン細胞毒性剤およびカンボテシン由来トポイソメラーゼ I 阻害剤である。B C R P - 介在耐性により影響を受けることが既知のアントラサイクリン細胞毒性剤は、ミトキサントロンおよびドキソルピシンを含む。カンボトセシン - 由来トポイソメラーゼ I 阻害剤は、トポテカン

、CTP - 11とも呼ばれるイリノテカンおよびその代謝物であり、SN - 38とも呼ばれる7 - エチル - 10 - ヒドロキシカンプトセシン、9 - アミノ - カンプトセシン、9 - ニトロカンプトセシン、ルルトテカン(lurtotecan)、ジフロモテカン、BAY 38 - 3441、BNP 1350とも呼ばれる7 - (2 - トリメチルシリル)エチルカンプトセシンおよびDB 67とも呼ばれる10 - ヒドロキシ - 7 - t - ブチルジメチルシリルカンプトセシンのようなシラテカン、およびCT 2016、DE 310、T - 0128およびプロテカン(PROTHECAN)のような種々のポリマー接合カンプトセシン誘導体のようなカンプトセシンおよびホモカンプトセシンの類似体または誘導体を含む。トポテカン、イリノテカン、ミトキサントロンおよびドキソルピシンは、本発明にしたがい使用する抗癌剤として特に有用である。